

27

よく生きる人と、よく死ぬ人

「私」は、医療施設で、もう治療するのが難しくなった人の心のケアを担当しています。半年以内の余命といわれている人と関わり、人生の最後の数か月の生き方に、その人のそれまでの生き方が反映されているように思えることがあります。

たった一度の人生だからこそ、どう生きることがよい死につながるのかを考えることは、大切です。「私」に「よい生とよい死」について教えてくれたのは、十六歳のヨツちゃんでした。

